

会 議 議 事 録

1 会議名	令和2年度第3回長岡市高齢者保健福祉推進会議
2 開催日時	令和2年12月24日(木曜日) 午後1時30分から午後2時45分まで
3 開催場所	社会福祉センタートモシア3階 多目的ホール
4 出席者名	(委員) 本田委員長 川崎副委員長 穴澤委員 岡村委員 覚張委員 小林啓一委員 佐藤委員 竹内委員 西山委員 長谷川委員 林委員 古川委員 八子委員 山崎委員 山田委員 吉井委員 米山委員 (事務局) 福祉保健部長 福祉総務課長 介護保険課長 長寿はつらつ課長 健康課長 長岡市社会福祉協議会事務局長 ほか関係職員
5 欠席者名	鯉江委員 小林守委員 村松委員
6 議題	(1) 第8期計画の総論(中間案)について (2) パブリックコメントの実施について (3) 長岡市地域福祉計画の中間見直しの概要について (4) その他
7 資料	別添のとおり
8 審議の内容	
発言者	議 事 内 容
福祉総務課長補佐	○配付資料の確認等
委員長	○委員長挨拶 医師会の先生方、そして介護事業者の先生方をはじめ皆さん、このコロナ禍において大変な緊張と同時に、色々な場面で対応されていることに感謝申し上げます。 前回は、介護・高齢者の保健福祉計画の推進の中で、介護保険事業のサービスの組み合わせをもっと検討したほうがいいのではということや、地域の特性、健康寿命というようなお話も出た。そんな中で、本日は第8期計画全体の中間案について、各担当課長から話をさせていただき、パブリックコメントの実施、昨年からはじめた地域福祉計画等々について、皆さんに協議していただくという予定である。お忙しい中で、中身の濃い会議にしていきたいと思っている。

<p>福祉総務課長 介護保険課長 長寿はつらつ課長 健康課長</p>	<p>○会議の傍聴・公開についての確認 ※傍聴者なし</p> <p>○議題 (1) 第8期計画の中間案について</p> <p>○資料No. 1に沿って説明</p>
<p>委員長</p>	<p>総論から各論、そして、その他介護予防、健康づくり的などころまで入っているのが非常に中身が濃く幅広いが、ご意見等あればお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>前回の意見について反映していただきありがたい。 半分質問になるが、116ページに健康診断の受診実績や受診率がある。特定健康診査でいうと、令和元年度が大体40%で、後期高齢者の健康診査が31%となっているが、この健康診査はどのような案内が行って、どのように受けるのか教えていただきたい。</p>
<p>健康課長</p>	<p>特定健康診査については主に国保の皆様が対象者である。市政日より4月号と同時配布の健康カレンダーでご案内をし、個人の特定健診記録票を対象の方に送り、その方たちにご自分のご都合に合う会場を予約していただくというシステムになっている。</p>
<p>委員</p>	<p>それは期間は決められているのか。</p>
<p>健康課長</p>	<p>会場によって日程がある。全世帯に健康カレンダーというものを配布し、会場ごとに日程が組まれており、それに基づいて皆様にご予約を頂いている。しかし、今年については、5月、6月とコロナの影響で中止しており、その代替えとして、来年1月の初め頃まで期間を延ばし、健康診査を実施している。</p>
<p>委員</p>	<p>何故お聞きしたかという、国保対象者の中でも少し若い方の話だが、そういう案内が来ても、結局いつでも受けられるスタイルだとかなり幅が広すぎて、逆に行かなくなっているというような話を聞いた。我々は会社員なので、強制的にこの日と決められて検査を受けているが、いつでも行って良いとなると、逆に行きづらいというようなご意見もあり、むしろある程度、1</p>

健康課長	<p>日、2日では駄目だろうが、絞った日にちがあるほうが、行かなきゃという意識に変わるのではないかというようなお話もいただいた。日程が限定されたほうが受診率が上がるのかなとご意見いただいたので、もし改善できるのであれば、この計画と少し別の話になるが、運用面でやっていただくとありがたい。</p> <p>特に私どもは若い方の受診率がやはり低いというのが課題なので、いただいたご意見を参考に研究していきたい。</p>
委員長	<p>確かにここにあるのは、国保の関係で、社保の方の数字が出てないので、率からいうと、肺がん検診でも22.1%で非常に数値が低い。社保を入れると随分違ってくるが、社保の数字はここにはシステム上反映できないのか。議会でもそのような話が時々出たりする。</p>
健康課長	<p>がん検診については、市の検診なので社保の方も利用しているが、主に国保の方が多い。委員長が仰るとおり、市の検診以外でも人間ドック等ががん検診等をやっているの、そちらの数値がここに反映されないというのも課題であり、その辺も研究して参りたいと思っている。</p>
委員長	<p>その他にいかがか。</p>
委員	<p>50ページ「安心できる住まいの確保」の「要援護世帯除雪費助成」についてだが、山間部は非常に高齢化が進んでいて、除雪がなかなか難しい状況になってきている。計画の中にも課題として取り上げてあるが、何か方策等があれば教えていただきたい。</p>
福祉総務課長	<p>要援護世帯除雪費助成については、福祉総務課で担当させていただいている。秋口から雪が降る前までに、対象の世帯からご登録いただき、民生委員を通じてご申請いただいている。近年一人暮らしの高齢者世帯、高齢の夫婦2人世帯も全市的に増えている。また一方で、除雪を行う業者も人手不足という現状もあると聞いており、なかなかいい解決策がない状況である。雪が降るときというのは一気に、特に山手では1メートルぐらいが急に積もるようなこともあり、屋根の雪下ろしも一気にご要望が出て、業者が回りきれないというような現状も聞いている。なかなかいい解決策がないが、できるだけ広くご利用いただけるような形で周知等も行っており、引き続きいい策があれば検討させていただきたい。なかなかいいお答えでなくて申し訳ない。</p>
委員	<p>私の出身地が十日町なので、そういう雪問題はかなり現実として厳しい状況にあり、業者の方も少なかったり、新聞で業者の方が転落して怪我をしたという記事もあり、人の家の除雪をするという危険と、12月の雪の場合とて</p>

<p>福祉総務課長</p>	<p>も重いことが多いので、私でも非常に危険で重労働だと感じる。そういう人材、マンパワーが必要だと思うので、早めにしっかりと考えていただきたい。</p> <p>市でも引き続き、研究をさせていただく。</p>
<p>委員長</p>	<p>他にご意見があればどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>認知症について、これから高齢化に従ってどんどん認知症が増えると思うが、54ページの「認知症サポーター」というのはどういうもので、どういう役割をしているのか。また、57ページに「認知症初期集中支援チームを設置している」とあるが、対応困難となった相談、つまり相談が遅いという問題がある。これはどうして対応困難となって遅い相談となっているのか。</p>
<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>まず54ページの認知症サポーターについては、先ほど申し上げたとおり、認知症に対する理解がまだまだ不足している。ある特別な方になるというような認識や、認知症になるともう何もかもわからなくなってしまったといった誤解や偏見があり、そういった中で誰しもがなり得る症状であるということで、まずはその認知症を正しく理解をしていただくため、認知症サポーター講座という形で受講いただき理解を促進する。現時点では、サポーターになったことで認知症の方に対して義務が発生することは無い。まずは理解を促進し、これまでサポーターになっていただいた方、認知症の方を理解する勉強をしていただいた方には、認知症の方に寄り添ったり、何かお困りなことがあったらその認知症の方に共感をしていただく。社会全体で認知症に対する理解を深め、認知症の方に対する優しさや、共生社会を築いていくための理解促進の学習をして、それを受けていただいた方が認知症サポーターとなっている。</p> <p>次にご質問いただいた、57ページの認知症初期集中支援チームの関係だが、これは立川病院に事業を委託している。認知症の症状が出始めて、家族の方がご心配されるが、ご本人がなかなかそれを受け入れられなかったり、ご家族の方がその身内の方が認知症であることを、なかなか受け入れられないというような方も多くいて、受診に繋がらないとか、受診が遅れる。そういった方のケアが難しく、その家庭的な環境、経済的な状況、或いは色々な部分で、認知症が発症されているが、なかなかケアに繋がっておらず、困難な状況である。例えば、徘徊が始まって、色々な部分で支障が出てきている方もいる。それを社会的に支えていくため、長岡市で立川病院に委託させていただき、この認知症初期集中支援チームで対応していくというものである。</p>
<p>委員</p>	<p>他の病院にはそういったものは無いのか。</p>

長寿はつらつ課長	現状ではない。専門的な知識もあり、スタッフも非常に色々な知識訓練等を積まれている中、チームでケアしていくので、色々な病院に広めて行くのが理想だが、現状では長岡市でこの集中支援チームが1つという形になっている。
委員長	地域包括支援センターでも同じような相談などやっているのか。
長寿はつらつ課長	市内に11か所ある地域包括支援センターの中にも、認知症地域支援推進員をそれぞれ配置しており、初期集中支援チームと連携しながら、認知症に対する相談等の対応をしている。
委員長	医療と直接結びつけるチームと、相談的な地域包括支援センターがある。市内には多くあると理解して良いと思う。 その他、ご意見があればどうぞ。
委員	112ページの高齢者の雇用について、第7期に比べると第8期はかなりボリュームがある。先ほどの説明の中でも、今後の方針の中で、就労意欲の高い高齢者が多いというのは確かだと思う。私も令和元年に内閣府が行った高齢者の生活の調査について調べた。60歳以上の方を対象とした調査だが、2割の方が「働けるうちはいつまでも働きたい」という意向があり、働ける場の提供は、私は必要だと思う。また、どういった理由で働きたいのかということにも興味深いところがあった。1番は「収入が欲しいから」といった理由だが、他に多い理由としては、「体に良いから」、「老化を防げるから」であった。また、「仕事そのものが面白いから」、「自分の知識・能力を生かせるから」という理由の方も約2割ほどいた。やはり働きたいというのが見える。最後に、仕事を見つけた方法についてのアンケートがあり、「知人・友人からの紹介」が28%程度で1番多かった。計画案の中に「情報を提供していきます」と記載があるが、今後、高齢者の方々へどのような方法で就職情報の提供をするのか考えていただければと思う。
福祉総務課長	この部分については、本日出席していない産業支援課が担当しているので、また担当課と相談しながら研究していきたい。
委員	今回の8期計画で、従来の計画と違う点は、やはりコロナウイルス感染症のことがとても重要だと思う。ワクチンが出来たら終わりではなく、ウイルス変化等について今後起こりえることだと思う。来年度の介護保険制度改正も感染症に対すること、災害に対する講習などがかなり重点化されている。感染症になって、利用者の方が使い続けるサービスも大事だが、もう少し長岡市としての感染症への対策も重要である。例えば、東京で起こっているようなことが長岡で起きたら、市全体として各施設間の連携や病院との連携が

<p>介護保険課長</p>	<p>より深まると思うので、やはり今回の8期計画はもう少し感染症に対するものを出すべきではないかと私は感じる。</p> <p>7月の熊本での災害、それから現在発生しているコロナの関係で、施設の業務継続能力や感染予防能力というのが謳われているが、国においては、今月、災害とコロナのことについて色々な方針が示されている。災害の関係では業務継続のために、計画の策定や開始、研修、訓練の実施を義務づけ、それから、コロナの関係については、新たに委員会を開催したり、指針整備、研修訓練の実施を義務づけたりと謳われている。市として、これから具体的に国のほうから示されると思うので、それに沿って今後対応していきたい。</p>
<p>委員長</p>	<p>上越では感染症対応の施設訓練等をされていたり、新潟市では感染症の場合の避難所として色々工夫するような具体的なものが出てきている。</p> <p>他にあればどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>100ページの「介護基盤の整備の方向性」について教えて頂きたい。102ページ「施設・居住系サービスの整備」2行目に、「短期入所生活介護からの転換により、新たな施設整備や介護人材の確保等を要することなく、介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）の増床を進めます。」という部分の意味合い、施設整備しなくてもそういったことが可能なのかを聞かせていただきたい。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>ただいまのご質問のあった文章の意味合いだが、現在の特別養護老人ホームの中には、普通の長期入所のお部屋と、時々ご都合で預けたいといった短期入所のショートステイの部分が同じ施設の中にある。長期と短期の部分があり、短期のところは少し空いている状況もあるので、ショートステイ部分を長期用に変える。これまでの施設と外から見て変わりなく、新たに増築することなく、制度の枠組みを変え、短期部分を長期に変えるということで、増床するという意味合いである。建物自体の増築を伴わずに、ベッドの数の枠組みを変えることで、長期用を増やすという意味合いである。</p>
<p>委員長</p>	<p>他にご意見等あればどうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>介護保険サービスについて、持続可能という中でも現状のニーズを踏まえてというところと、将来の見通しという状況の中では、介護保険サービス業務については適正なサービス量の計画になっていると感じる。</p> <p>また、総論の31ページ「日常生活圏域の設定」の2「圏域ごとの高齢者人口等の変動など、状況に変化が生じた場合には、必要に応じて、圏域の見直しについても検討していきます。」とある。そして、33ページの⑥川西地区南の圏域の特徴として、高齢化率、後期高齢者率は低いものとなっているが、</p>

<p>長寿はつらつ課長</p>	<p>人口、高齢者数、後期高齢者数は、他の圏域と比べても多いように感じる。そして、在宅系や居住系の多くの事業所があるが、バランス的にもこの圏域がどうなのかなと感じる。地域包括の役割はこういった状況の中では非常に大切で大きい部分があり、地域の捉え方など今後検討していただくことがあればと思う。</p> <p>数字を見ても、33ページの川西地区南の人口が46,121人と、他の地域と比べると多くなっている。また、核家族化の進行や農村部から出てアパートなどに住む方など、まだまだ増えていく要素もあると認識している。その中で、包括の区分で言うと西長岡になるが、西長岡を含めて委託先の法人とも相談し、この高齢者人口に見合うような包括の体制的なものも協議を始めている。今後、ますます人口動態が減少していくところもあれば、増えるところもある。また状況に応じて、この計画にすぐに盛り込めるものではないかもしれないが、随時見直しをかけながら、それぞれの包括を担っていただいている法人とも協議をしながら、職員体制や支援体制がどのように組んでいけるか相談させていただきたいと思う。</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>(2) パブリックコメントの実施について</p> <p>○資料No. 2に沿って説明 (質問等無し)</p>
<p>福祉総務課長</p>	<p>(3) 長岡市地域福祉計画の中間見直しの概要について</p> <p>○資料No. 3に沿って説明 (質問等無し)</p> <p>(4) その他</p> <p>(事務局から連絡等無し)</p>
<p>委員長</p>	<p>前回に引き続き、この時期に、皆様に中身の濃いお話、地域の実情、現場の実情などを聞かせていただき感謝申し上げます。考えてみると、65歳以上が8万3000人。高齢者だけの福祉計画ではなく、これは市民全体の福祉計画である。その意味で、また皆さんの意見を反映させながらより良い第8期を作っていく一歩手前まで来ている。本日も多くのご意見をいただき感謝申し上げます。それでは、進行を事務局にお返ししたいと思う。</p>

<p>福祉保健部長</p>	<p>○福祉保健部長挨拶</p> <p>本日、年末のお忙しい中お集まりいただき、活発なご議論いただき感謝申し上げます。</p> <p>策定作業も大詰めに入って参り、本日委員の皆様からそれぞれの立場、それぞれの専門、分野から様々なご意見、ご指摘をいただいた。市民の皆さんの困りごとや悩みごとが複層化している。色々な要因が背景にあるような、そういった難しい悩みや相談が増えていくので、包括的に、且つ身近な地域で解決をしていくような体制づくりがさらに必要となってくる。併せて、災害対策や新型コロナウイルス感染症対策といったまさにタイムリーな話を、しっかり織り交ぜながら進めて参りたい。本日もいただいたご意見はもちろん、先ほど事務局から説明があったように、年明けにはパブリックコメントということで、市民の皆さんからのご意見を頂戴していく。そういったものを踏まえ、最終形をまとめていくことになる。最終的な形になったものを、次回の会議までにお示しし、最終的に確認をいただくという流れになる。皆様方には、そういう意味では次回がまとめの会議ということになると思う。年度末のお忙しい時期になろうかと思うが、最後まで何卒ご協力をお願いしたい。本日はお忙しい中、本当に感謝申し上げます。</p>
<p>福祉総務課長補佐</p>	<p>○閉会（事務連絡）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次回の推進会議は、3月中旬頃の開催を予定している。 ・本日の会議録は、後日お送りする。なお、内容は長岡市のホームページにも会議録を掲載するので、ご承知おきいただきたい。 ・本日お車でお越しの方で、まだ駐車券の無料処理をされていない方は閉会后、事務局にお声がけいただきたい。